

第14期体制発足のご挨拶 ～故尾崎会長の遺志を継ぎ～

故尾崎会長が、日本ベンチャーキャピタル協会会長として志を遂げる途上にて永眠されたのは、去る4月7日のことでした。突然の訃報に、我々JVCA会員一同、驚きと失意にしばし呆然としました。その週末のお通夜および告別式には、業界はもとより、尾崎会長のお人柄故でしょう、数多くの故人を偲ぶ方がお集まりになられておりました。そして、前晩から降り続いた雨は出棺の時にぴたっと止み、会長の「では皆さん、よろしくたのむよ」という声が聞こえたようで、皆で清々しい気持ちでお見送りできた、そんな心持ちでありました。

この度、第14期体制が発足し、執行理事陣の一層の強化が為されますが、これは故尾崎会長が新年開けて新任候補の理事を中心に新年会を催された際、協会の次期構想と体制につきお話頂いたご意向をもとに組成されております。私共は、協会発足当初より業界発展に尽力頂きました故尾崎会長の遺志と言葉を受け継ぎ、以下使命及び三つの姿勢・取組みを掲げて、協会運営を通じた社会貢献に尽力していきたいと考えております。

<使命>

ベンチャーエコシステムの発展拡大による新産業創造を通じて、
日本発世界経済の発展に寄与する

<運営姿勢>

1. 「社会的存在」として、政府・省庁・諸団体と繋がり、発信・啓蒙を行う
2. 「戦略」的に考え、ビジョン・イシュー・マイルストーン等アプローチで運営する
3. 協会員成功のための「互助会」と位置付け、相互連携の基盤とする

<主要取組み>

1. ベンチャー・エコシステムの発展（対ベンチャー）
2. ファンドレイズ/運営・エコシステムの構築（対投資家）
3. オープンイノベーションの推進（対社会）

今やベンチャーキャピタル産業は、国家の産業政策の根幹を担う重要な基盤と目され、こと日本では、戦後の繁栄を築いた重厚長大の先、次世代産業創生の担い手として大いなる期待そして使命を携えております。

日本ベンチャーキャピタル協会は、会員各々の互助、VCシンジケーションを通じての新興ベンチャー企業の創出、ひいては日本発世界に通じる産業の育成を目標に、産業創生インフラとなるベンチャーキャピタル産業の下支えとして強固で有用な地盤を築くべく尽力して参ります。ご期待下さい。

日本ベンチャーキャピタル協会 会長 仮屋 蘭 聡一